

特集 「2013年度人工知能学会全国大会 (第27回)」

## オーガナイズドセッション

砂山 渡 (広島市立大学), 松井 藤五郎 (中部大学)

第27回人工知能学会全国大会では、24件のオーガナイズドセッション (以下、OS, 表1) が開催された。ここ10年間のセッション数の推移を見ると、第18回 (平成16年) が4件、第19回が7件、第20回が11件、第21回が8件、第22回が13件、第23回が12件、第24回が14件、第25回が22件、第26回が21件と、回を重ねるにつれて着実にセッション数が増加し、特にここ3年間ではセッション数が大幅に増加したことがわ

かる。プログラムを見ると、一般セッションの発表件数297件に対して、OSの発表件数は298件となっており、OSが全国大会において大きな比率を占めていることがわかる。セッション内の発表件数も5件から最大で27件と幅広い。

また、国際オーガナイズドセッション (以下、IOS, 表2) でも、四つのセッションで合計49件の発表が行われた。国際OSは、全国大会の国際化を促進するために昨年度

表1 第27回全国大会オーガナイズドセッション (OS) と発表件数 (招待講演含む)

OS 番号	セッション名	発表 件数
OS-1	オノマトペの利活用:「オノマトペ」という視点から現象を読み解く	13
OS-2	身体知の表現と獲得	13
OS-3	意味と理解のコンピューティング	7
OS-4	知的インタラクティブシステムのためのインタラクションデザイン	8
OS-5	脳科学とAI	17
OS-6	情報の保護と中立性に配慮したデータ分析	9
OS-7	ヒューマンコンピューテーションとクラウドソーシング	23
OS-8	グリーンAI～AIによる環境貢献～	12
OS-9	SAT技術の理論、実装、応用	14
OS-10	Linked Dataとオントロジー	18
OS-11	仕掛学	13
OS-12	知の身体性	12
OS-13	交通・移動・物流とAI	5
OS-14	ネットワークが創発する知能	12
OS-15	マッシュデータフロー～人と環境と人工システムが作り出す複雑さ～	8
OS-16	金融情報学	5
OS-17	知的対話システム	12
OS-18	エージェントの意味を拡張する: Human-Agent Interaction 研究の新たな方向性	11
OS-19	記号創発ロボティクス	15
OS-20	「私」の境界と意味の現れへの構成論的アプローチ	12
OS-21	ビッグデータとAI	11
OS-22	雰囲気工学～ヒューマンコミュニケーション研究の発展に向けて～	15
OS-23	Affective Modeling in Learning Environments—学習・教育におけるコンピュータ支援の更なる深化を目指して—	6
OS-24	内部観測と推論	27

表2 第27回全国大会国際オーガナイズドセッション (IOS) と発表件数 (招待講演含む)

OS 番号	セッション名	発表 件数
IOS-1	Cognitive Training and Assistive Technology for Aging	12
IOS-2	Compter Games and Computational Intelligence	7
IOS-3	Intelligent Data Analysis and Applications	19
IOS-4	Modern Approaches for Intelligence Design: From Mining to Inference	11

から開始された英語で行われる OS であり、台湾の研究者や国内大学に在籍する留学生らを中心に多数の参加者を集めた。特に、IOS-1 は大会終了後に東京新聞夕刊の連載「AI で支える認知症」(全 6 回)の中で取り上げられ、注目度が高かった。

本学会全国大会における OS の特徴として、(1) 招待講演を行えること、(2) 発表以外の時間を設定できること、(3) インタラクティブセッションとの連携を図れること、があげられる。

招待講演においては、通常の 20 分の発表時間にこだわることなく発表時間を設定できるとともに、本学会非会員の招待講演者については、セッション当たり 1 名まで参加費と講演費の免除を受けることができる。また、事情により原稿 PDF を用意することが困難な招待講演者は、原稿なし(原則 1 ページのタイトルとアブストラクトはお願いしている)とすることもできる。本年度も多彩な 22 件の招待講演が行われた。オーガナイズドセッションの招待講演をはしごできるように、「OS 招待講演一覧」が大会の Web サイトにも掲載された。招待講演者を含めて、人工知能とは異なる分野の研究者の発表や参加が見込まれるため、新たな視点からのブレイクスルーが得られる可能性を秘めている。

また、プログラムの事前申請を行っておくことで、発表時間以外に、オープニングや総合討論、パネルディスカッション、休憩の時間を適宜設けることができる。実際に全体の半数になる 12 のセッションが、これらの時間を設定して活用していた。普段は集まるのが難しい、さまざまな分野の人達と、時間をかけた議論を行うことで、新たな可能性を模索することができる。

本大会では 6 件の OS でインタラクティブセッションとの連携が見られた(OS-5, OS-8, OS-10, OS-11, OS-14, OS-24)。インタラクティブセッションと口頭発表との連携においては、相互に聴講者を呼び込むこと、OS 独自のスペースをインタラクティブセッションの場に設けること、口頭発表で理論を説明し、そのデモをインタラ



図1 市民プラザアトリウムで行われたセッション

クティブセッションで見せることなどが行われ、OS を効果的に宣伝する方策として役立てることができる。

なお、これらは OS の審査対象の項目となっているため、応募時に申請する必要があることや、申請採択後には原則として変更できないことに留意されたい。また OS 数は大会の規模を考えると、ほぼ上限に達していると考えられるため、今後採択するセッション数の制限や、より厳密な審査が行われる可能性もあるため、今後もより魅力的な OS の提案をお願いしたい。

富山県富山市で開催された本大会では、半数以上の OS が行われた市民プラザは近代的なつくりの建物で、白い壁に囲まれたギャラリー用のスペースや、開放的なアトリウムなどでもセッションが行われた(図1)。

このような多彩な企画、環境のもとで行われた OS の報告記事(pp. 936-955)を、ぜひご一読ください。本報告記事をご覧になり、来年の第 28 回全国大会において、継続して、また新たなセッションのご応募を検討いただければ幸いです。最後に、魅力的なセッションを企画いただいたオーガナイザ各位に感謝の意を表し、OS 報告記事のまえがきとしたい。